

二六〇名が結集した二・一六関西国鉄集会 労働者の団結で国鉄闘争に勝利しよう！

二月十六日の午後六時三〇分から港区民センターで、全国一〇ヶ所で開催される集会の締め括りとして『二・一六関西労働者集会』が行われました。

冒頭に、八尾北医療センター労働組の灰垣書記長から開会の挨拶と、昨年一〇月の『国鉄闘争全国運動関西』で基調報告をされ、その末に亡くなった国労・富田益行さんへの黙祷、民主労総ソウル地区本部からの連帯メッセージがありました。

次に、動労西日本の原田さんから基調報告があ



りました。初めに「国鉄分割・民営化から二八年。北海道、貨物会社の例を見るまでもなく、経営力・財政の破綻は明らかで、関西でもローカル線の本数削減などの政策で、労働者は再び路頭に放り出

されようとしている」として、以下六点にわたって提起されました。

① 中西副委員長への解雇攻撃をストライキで粉砕する！

病気欠勤していた動労西日本の中西副委員長の復職要求をデタラメな条件を付けて拒否し、解雇しようとしている。解雇攻撃をストライキで粉砕しよう。

② 二・一六国鉄集会の意義

国鉄分割・民営化による不当解雇から二八年。本集会は、全国一〇ヶ所

で開催している国鉄集会の締めくりとなるものです。新自由主義の突破口だった国鉄分割・民営化に立ち向かい勝利してきている国鉄闘争全国運動こそ、世界の労働者階級と固く結びつくものです。労働者の真の国際連帯を発展させ、職場と世界の仲間を守り抜きましょう。

③ 動労千葉鉄建公団訴訟に勝利しよう。

一番、二番でJR採用の際の名簿不記載は、動労千葉組合員であること、を理由とした不当差別で、不当労働行為と認定されました。これは事実認定で、最高裁は事実認定を

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

ひつくり返すことはできません。一〇万人署名を貫徹し、最高裁で解雇撤回・JR復帰を闘いとう。

④ JR大再編と対決し、外注化・非正規化粉碎・JR体制打倒しよう。

JR東日本千葉支社は、三月のダイヤ改正で特急列車を廃止・削減することを発表しました。これは地方切り捨てと同時に、要員の大量削減・外注化への出発です。すでに東京駅で新幹線の出札・改札業務が外注化し、千葉管内だけで八駅が全業務外注化されました。安全の要である郡山工場などでも全面的な外注化計画

が打ち出されようとしています。これは、国鉄分割・民営化を上回る大攻撃です。これと対決し打ち破れるのは、階級的労働運動だけです。

動労千葉を先頭に、外注化・非正規化粉碎の闘いに立ち上がりましょう。⑤ 動労総連合を全国に作ろう！ 拠点労組をあらゆる産別・職場に無数に作り出そう。

戦争と民営化・外注化・非正規化を粉碎する道は、国鉄闘争全国運動を進展させることです。第一に、新自由主義の先頭を走り、戦争と民営化・外注化・非正規化に突き進むJR体制を打ち倒す階級的労働

運動を登場させることです。第二に、戦争と民営化・外注化・非正規化・労働破壊が公務員・民間共に襲いかかる中、真っ向から激突してあらゆる産別・職場に階級的労働運動の無数の拠点を作りだすことです。第三に労働者階級全体に衣食住

が奪われる時代に突入する中、労働組合を軸に地域全体を決起させることです。西郡住宅闘争、植木団地協同組合のように、地域ソビエトにつながる闘いをつくりだすことで

す。第四に、動労総連合の西の砦である動労西日本の発展をつくりだすことです。動労西日本を存

在させてはならないというのが、JR西日本の本音です。中西副委員長の職場復帰拒否・解雇攻撃と、大江委員長との職場ビラ入れに対する嚴重注意処分攻撃は、それが剥き出しになったものです。この攻撃に対してストラ

イキを打ち抜き、組織破壊攻撃を粉碎し、組織拡大を実現します。⑥ 尼崎事故弾劾、反合理化・運転保安闘争で闘おう。

今年は、尼崎事故から一〇年目です。JR西日本は事故責任を居直り、外注化・非正規化をすすめていきます。三年前に『機構改革』を行い、検

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

修部門と運転士部門を分離させ、検修部門を総合車両センターに所属させました。検修全面外注化に向かおうとしています。

動労千葉と国鉄闘争全国闘争・関西が主催する、尼崎事故一〇周年弾劾尼崎現地闘争に結集しよう(四月二五日JR尼崎駅北口広場)。六・七国鉄闘争全国運動全国集会(日比谷公会堂)を闘い

とろう。
次に、動労千葉争議団の中村執行委員から現状報告と決意表明がありました。「全国一〇ヶ所を集会を実施してきた。ストライキで解雇されたが、今ここに立つことができ

ているのは、皆さんと団結して闘い抜いてきたからです」。

次に、動労千葉顧問弁護士の鈴木弁護士から特別報告がありました。「鉄道パッケージ輸出が政府の焦点。国内は無視している。偽装請負や、安全を無視した体制で、車輪転削で小指を切断するなどの事故が起きています」。

次に、国鉄労働運動から二労組よりの発言。
動労千葉の田中委員長から「国鉄解体は、戦後最大の労組破壊攻撃。三月からのダイヤ改正にもストライキで闘う。民営化で労働者は豊かにはな



らない」。

次に動労西日本の中西副委員長から、自身の職場復帰を求めた闘いの経過についての報告がありました。

①昨年一〇月から体調を崩し、主治医の判断で二ヶ月病欠。
②十二月末に四条駅驒の管理職から、主治医に就

業可否を伺うように支持を受けた。

③今年一月五日に主治医から、就業可能との診断を受けた。

④その日のうちに、四条驒駅に「就業可能の診断が出た」と連絡。

⑤翌六日に四条驒駅を訪れ、駅長および副駅長に診断内容を報告。副駅長は一月十二日から復帰をする旨の通告。その際に中西副委員長の「診断書は必要か」の問い合わせに「診断書はいらない」と明言。

⑥七日、副駅長から「復帰には診断書が必要との電話があり、「主治医の病院は予約制で、次の診

察日の十六日に貰い、提出しに行く」と返答。

⑦九日、副社長から電話があり、「二十三日にJR西日本の健康増進センターで、産業医と面談すること」と伝えてきた。更に、「アンケートを送るので記入して産業医に提出すること」と指示。

⑧十九日、中西副委員長あてに封筒が届く。中には『五行日誌』・『睡眠リズム表』と書かれた用紙が三セット入っていた。中西副委員長は「こんな用紙記入強制はこれまでなかったことであり不当だ。同時にプライバシーの侵害だ」と怒り、記入を拒否。

⑨二十三日、健康増進センターで梅原産業医と面談。産業医から、「今の薬を見せてくれ」と言われたので見せた。続いてアンケートの提出を求められたので、書いていないと提出を拒否。産業医はこれをもって面談の打ち切りを宣言し、復職できな

ないことを通告してきました。との事です。このまま復職できずにいると、休職期間超過で解雇となります。「勤労西日本は二月二十七日に解雇粉砕・職場復帰をかけてストライキに立ち上がる」とありました。

次に決意表明が、関西地区生コン支部、関西合



同労組、八尾北医療センター労組、高槻医療福祉学連、日教組奈良市、全学連、大阪市職、港合同よりあり、最後にスタンダード・ヴァキウム石油自主労組の上村副委員長のもとと団結ガンバローで終わりました。

一つの駅の業務を丸ごと



と外注化するというのは、どの様に安全を確保して、問題が起きた時はどこが責任を取るのでしょうか。この様な危険な事は断固として反対しなければいけないと思いました。

昌一金属 A

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！